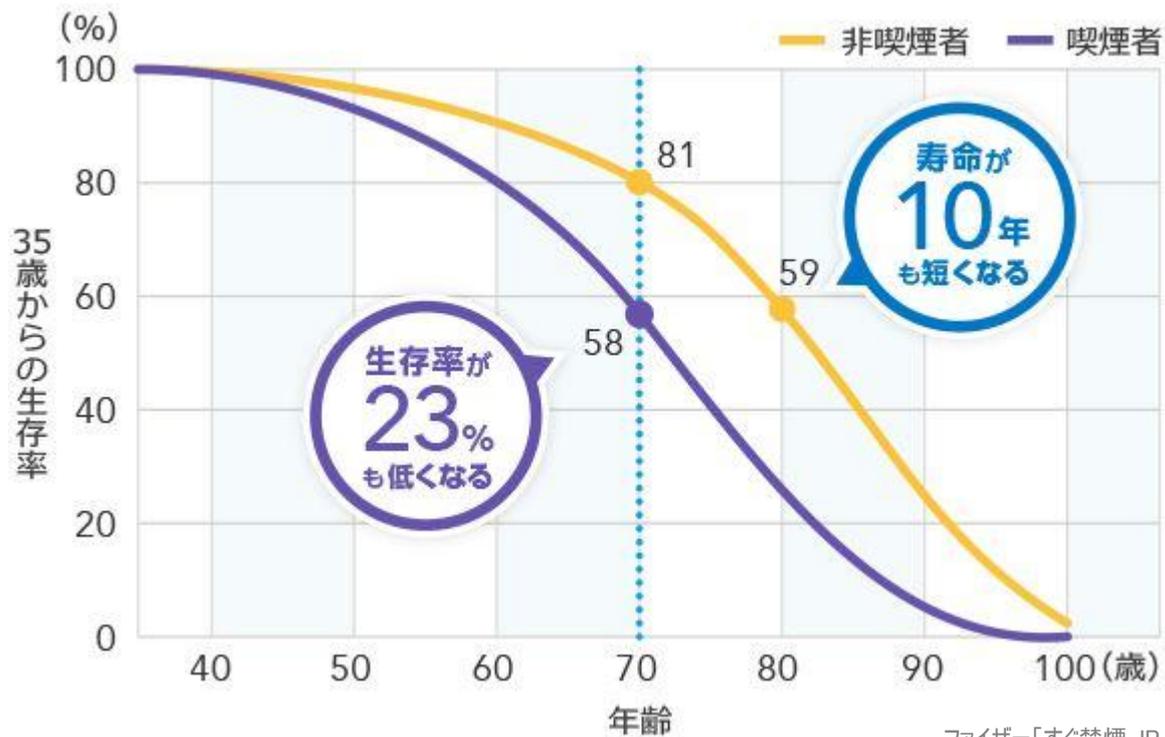


週刊 **タバコの正体**

令和2年(2020年)を迎えました。今年はいよいよ東京オリンピックが開催されます。どんな感動が待っているのか楽しみです。皆さんにとっては、その前に1年の締めくくりとなる3学期が始まりました。卒業、進級に向けて各自しっかり学業に取り組んで下さい。



さて、上図は何を示していると思いますか。図中の下のグラフは喫煙者、上のグラフは非喫煙者の生存率を表しています。例えば横軸の年齢が70歳の所に注目してください。縦方向の点線をなぞって行くと下のグラフとの交点に“58”、上のグラフとの交点に“81”と書かれていますよね。タバコを吸っている人は70歳で生存している人は58%、対してタバコを吸っていない人は81%いる、ということなのです。つまり、タバコを吸っていると「生存率が23%も低くなる」と言っているわけです。

また、今度は縦軸の生存率が60%のラインを横方向に見ていくと、喫煙者のグラフは70歳、非喫煙者のグラフは80歳で交わっています。と言うことはタバコを吸っていると「寿命が10年も短くなる」と言うわけです。

このデータはイギリスの男性医師3万4千人を対象に50年間調査した結果だそうです。いかがですか、こんな事実を知った上であえてタバコを吸い始める人はいないと思いますが、あらためて「タバコは喫煙者自身の寿命を縮めている」のだと、しっかり心に留めておいて欲しいと思います。

産業デザイン科 奥田 恭久